

令和2年12月9日

株式会社エフエム富士 御中  
代表取締役社長 高木 郁夫 殿

山梨県建設組合連合会  
会長 中村 春彦  
甲府市下石田 2-10-24

Future Housing～家を建てよう！～の放送内容に対する抗議について

前略 時下ますますご清栄の段、大慶に存じます。

当会は、建設労働の現場ではたらく組合員の社会的・経済的地位の向上のために組織された山梨県内における建設労働組合です。組合員の仕事確保、くらしやいのちを守るため日々活動しており、近年では、災害時における地元の建設技能集団の役割として、木造の応急仮設住宅建設事業への参画など、「地域に根差し、地域に貢献する組織づくり」を目標として活動しています。

さて、令和2年11月26日の15時44分から放送された「Future Housing～家を建てよう！～」の中で、「都留だからと言って、郡内の業者でダメじゃダメよ。甲府まで出てこない」とや「もしくは、八王子まで行ったら…（略）八王子の業者は都留でやるから」等の出演者による発言がございました。拝聴している側とすれば、郡内の業者には相談するな、郡内以外の業者に相談しろとも捉えられ、リスナーに「郡内の業者はダメ」だとの烙印が一方向的に刷り込まれる可能性もあります。また、番組としてそのような趣旨ではなくとも、「郡内の業者はダメ」と誤認される可能性がある限り、郡内にも多数の組合員を有する当会としては到底看過することはできません。

コロナ禍により多くの事業者が多大な打撃を受け、事業の存続すら危ぶまれる状況下にある中、私たちは地域住民の住環境を守る使命感を持ちながら、そして自分達の家族や従業員を守るために、皆仕事確保に必死になりながら目下の状況に耐え忍んでいます。このような状況下で、郡内地域の組合員が当該放送を聞けば、どのような心境になるのか心中察するに余りあります。

つきましては、郡内地域に留まらず、一部地域の建設業者の気分を害するような放送、もしくは排除するよう取れる放送は厳に慎んでいただくとともに、本件に対する貴局の見解と今後の対応策をお聞かせいただきますよう強く要望いたします。

なお、貴局の見解並びに今後の対応策につきましては、文章にてご回答いただきますようお願い申し上げます。

草々

令和2年12月11日

山梨県建設組合連合会 御中

株式会社エフエム



「Future Housing～家を建てよう！～」の放送内容について

謹啓 寒気の候、貴団体におかれましてもこの度の災禍に大変なご苦労も多いかと拝察致しております。

さて先般、貴団体よりいただいた弊社番組「Future Housing～家を建てよう！～」の本年11月26日放送分内容へのご抗議につきまして、回答させていただきます。

まず、弊社放送により貴団体および組合員の方々に対しまして、ご不快な思いをさせてしまいましたこと、心よりお詫び申し上げます。

ご指摘の放送分についてですが、番組としては、家を建てることを検討するにあたり、広く様々なオープンハウスをご自身で見てご判断いただく旨をお伝えするものでした。同放送日の郡内地域のリスナー様からの質問に対し、出演者の“郡内でダメならダメ・・・”という発言は、「もし地元地域で自身の納得いくオープンハウスが見当たらなかった場合には、エリアを拡げて地元以外のオープンハウスにも足を運んでみては」という意味合いでの発言でした。

今後は、この度貴団体よりご指摘いただいたことを真摯に受け止めさせていただき、出演者の発言の仕方によっては、その主旨が正確に伝わらない場合があることをより一層意識し、丁寧な番組制作に努めて参りたいと考えます。

謹言